

R7 インターンシップ ダイジェスト版

インターンシップ報告会

10月7日および8日に協定型インターンシップ参加者によるインターンシップ報告会Ⅰ（ポスターセッションおよびグループディスカッション）を実施した。また、10月16日に全学生に公開の形でインターンシップ報告会Ⅱ（代表者による体験発表）を実施した。

報告会Ⅰでは、インターンシップ参加者が、ポスターセッション形式で、それぞれの実習概要、成果や今後の目標などをグループ内で報告した。その後、グループディスカッションを通してインターンシップの振り返りを行い、さらに考察を深めた。全体会でそれぞれのグループ協議内容を報告し、共有を図った。その後、就職活動を終えた昨年度本インターンシップ参加の4回生から、就職活動体験談および今後のアドバイスをもらった。

報告会Ⅱでは代表者の発表を聞き、互いに学びを深めるとともに、現在社会で活躍中の先輩から貴重な講話をいただき、社会への理解を深めた。

以下は、報告会Ⅰのグループの協議内容の抜粋である。

① インターンシップ 就業体験を振り返って

(ア)どのようなことを学んだか

A 仕事や職場に係わること

- ・コミュニケーションの重要性
- ・社会のしくみ
- ・仕事への理解・責任
- ・場面に応じた言葉遣い
- ・データに基づく政策立案
- ・行うべき業務の内容
- ・報・連・相の大切さ
- ・職場の雰囲気のよさ
- ・挨拶の大切さ

B 自己の能力や適性、姿勢などに係わること

- ・コミュニケーション力の必要性
- ・人の話を聞く力
- ・積極的に動くこと
- ・スケジュール管理の大切さ
- ・仕事の内容を共有することが大切
- ・自らを客観的にみる姿勢が必要
- ・自分の適性を知ることの難しさ
- ・自分の考えを整理すること
- ・笑顔とあいさつの大切さ
- ・専門的知識の必要性
- ・プレゼン力

C 有益な指導や助言

- ・笑顔の大切さ
- ・試験に向けたアドバイス
- ・社会人としての働き方
- ・日ごろから情報収集すること
- ・発表するときには自信をもって行うこと
- ・専門外の方に分かりやすく伝える能力
- ・硬くならず自分らしく
- ・安全第一
- ・ノルマとクオリティのバランス

(イ)社会人として働くうえで必要と思う資質

- ・十分な知識
- ・傾聴力
- ・計画性
- ・早めに報告すること
- ・あいさつができること
- ・自身の健康
- ・報連相が徹底できること
- ・ビジネスマナー
- ・協調性
- ・場面に合わせた言葉遣い
- ・効率よく仕事をすすめる力
- ・仕事への責任感
- ・プレゼン力
- ・コミュニケーション力

(ウ)これからの具体的な自己目標

(就きたい業界・職種、進路など)

- ・公務員関係
- ・人とかかわる仕事
- ・海外の仕事
- ・スポーツにかかわる仕事
- ・研究職
- ・製造関係
- ・事務職
- ・スペシャリスト

(必要な能力・取り組んでいきたいことなど)

- ・コミュニケーション力
- ・リサーチ力
- ・冬のインターンシップへの参加
- ・専門的な知識をさらに増やすこと
- ・自己分析と業界分析を進めること
- ・TOEIC800点以上
- ・積極性
- ・学内合同説明会に参加すること
- ・エントリーシートの完成
- ・情報収集
- ・プレゼン力
- ・SPI の勉強

② インターンシップの受入れ先について

(ア)受入れ先の対応について良かったこと

- ・フレンドリーに対応していただいた。
- ・多様な学びがあり、理解が深まった。
- ・実際に様々な業務を体験することができた。
- ・移動等の際にいろいろな話をしていただいた。

- ・質問しやすい空気を作っていた。
- ・食堂が安くておいしかった。
- ・うまく日程調整をしていただいた。
- ・多くの方と交流できた。
- ・「失敗しても大丈夫」というスタンスで見守っていただいた。
- ・プログラムが実践的なものだった。

(イ)受入れ先の対応で改善してほしいことや要望

- ・当初聞いていたことと内容が少し異なっていたこと。
- ・時間を持て余すことがあった。
- ・本社と店舗との連携が必ずしもスムーズではないこともあった。
- ・事前連絡等において、メールへの返信がなかなかいただけないことがあった。
- ・空調が寒すぎることもあった。

③ インターンシップに関する大学への意見

- ・文系学部向けの実習先を増やしてほしい。
- ・交通費、宿泊費などの補助を増やしてほしい。
- ・マナー講座や事前研修などが充実しているように感じたので、今後も継続してほしい。インターンシップ後に改めて感じています。
- ・インターンシップに参加することにより学ぶことの多さを周知し、参加者を増やすべき。
- ・授業の関係で話を聞きたい企業の話が聞けなかった。インターンフェスの実施日をさらに増やしてほしい。
- ・協定型インターンシップと集中講義が重なったときに集中講義の取り消しができることを周知する。
- ・マナー講座を動画で何度も学びたい。
- ・資料をまとめることで学生がスムーズに準備できる。
- ・ビジネスマナーはさらに実践的である方がよい。
- ・インターンシップ後に企業を招いての振り返り等があるとよい。
- ・夏休み期間以外にも協定型インターンシップがあるとよい。
- ・協定型は参加するのに少しハードルが高く感じる。

④ インターンシップの就業体験は、どのような意義があると思うか

- ・働くことのイメージがつかめる。

- ・社会の一員として働く練習になる。
- ・職場の雰囲気や社会人の生活を知ることができる。
- ・アルバイトでは得られない仕事についての理解が得られる。
- ・いろいろな人から話を聞くことができる。
- ・想像と現実の違いが分かる。
- ・具体的な業務の体験ができる。
- ・自分の適性や能力を知ることができる。
- ・早期選考のためのプロセス

⑤ 社員・職員の方および他大学生と接して学んだことや感じたこと

- ・誰とでも円滑にコミュニケーションをとることの必要性
- ・相手に応じた対応の仕方が必要
- ・積極的な姿勢を持つことが大事
- ・優しくフレンドリー
- ・そこまで何事も固くはないこと
- ・知識量のちがい
- ・堂々と振舞うと優秀に見えること
- ・誇りをもって仕事に取り組んでいる様子
- ・笑顔の大切さ
- ・コミュニケーション能力の高さ
- ・学びへの意欲が強いこと
- ・参加者を見て、刺激を得られた。
- ・転職者の多さに驚いた。

⑥ 「働く」とは、どのようなことか

- ・自己実現
- ・社会貢献
- ・「未知」を知ること
- ・お金を稼ぐこと
- ・誰かの役に立つこと
- ・世の中を動かしていくこと
- ・自分の視野を拡げること
- ・人の役に立つこと お客様に寄り添うこと
- ・責任を持つこと
- ・同時進行で多様なことに対応すること
- ・更なる貢献のために自身のスキルアップを図ること

これからインターンシップに参加する後輩へのアドバイス(抜粋)

① 参加することに迷っている後輩へ

- ・公務員になることは決めているけれど、どの形式で受験するか迷っている人にはぜひ公務員関係の協定型インターンシップに参加することをおすすめします。私は行政職か社会福祉職どちらで受験しようか迷っており、判断材料として活用したいと思って協定型インターンシップに参加しました。実習先で様々な職員の方とお話をする機会があり、行政職員でも福祉系の部署や児童相談所などで長く勤務されている方もいらっしゃるなど、実際に何年か働いてみないと知ることが出来ない有益な情報を得ることが出来ました。また、生活サイクルを整えたい、固定したいという人にもおすすめです。大学に行く時間が日によってまちまちな学生にとっては、連続して何日も早寝早起き続けることはかなり苦行ですが、今のうちに経験しておいて損はないと思います。
- ・3回生の夏休み、興味がある企業が無くても、まずはインターンシップに参加することが大切だと思います。参加して一番良かったと感じているのは、その受け入れ先の仕事や雰囲気について知れたのはもちろんですが、実際に働かれている方とたくさんお話できたことです。その仕事についてだけでなく、就活全体のことについてアドバイスをいただいたり、ライフプランなどを聞かせてもらいました。受け入れ先に関わらず、人生の先輩から貴重な意見をもらえるチャンスだと思います。また、仕事が学部の内容と近い場合や、専門職の場合は、大学で何を学んでいるかを聞かれることが多いと思うので、そのあたりの知識を整理しておくとう良いと思います。
- ・大学協定型インターンシップをとるべきである。説明を受けるときは、資料の作成や大学・実習先とのやりとりが面倒くさいように感じるかもしれないが、就職したら必ず経験することであり、それを大学のうちにできるというのは非常に良い経験になる。また、マナー講座ではあいさつの仕方や言葉遣い、電話対応や名刺の受け取りかたまで学べるため、意味のある講座だと感じたうえに、実習前訪問のとき、実行することができた。さらに、協定型インターンシップは報告書用のパワーポイントを作成するが、普通のインターンシップではそれが無いため、ここでも差が出ると感じた。ただインターンシップに行くだけではなく、反省点や学んだこと、課題などを形にし、言葉にすることは重要なことである。協定型インターンシップをとるか悩んでいる人は、ぜひ良い機会になるため、とるべきだと思う。
- ・インターンシップに参加しようか迷っているのであれば、ぜひ参加してほしい。私自身、インターンシップに参加しなければと思っていたものの、どの業界に行けばよいのか、どのように準備を進めればよいのか分からず不

安も多かった。その中で大学協定型インターンシップに参加したが、結果として非常に有意義な経験となった。大学協定型インターンシップでは、まず「県大インターフェス」で事前に企業から直接話を聞くことができるため、会社の雰囲気や実習内容を具体的に知ることができる。そのうえで実習先を選べるため、自分に合った企業を見つけやすいと感じた。また、大学からのサポート体制が整っているため、手続きなどもスムーズに進めることができた。さらに、事前に受けたマナー講座はインターンシップだけでなく将来にも役立つ内容で、非常に価値のある講座であった。アドバイスとしては、想像以上に職員の方と話す機会が多かったので、自分が大学で学んでいることを分かりやすく説明できるよう準備しておくことや、聞きたい質問をあらかじめ考えておくことをおすすめする。

- ・インターンシップに参加したいと考えている人には、ぜひ「協定型インターンシップ」に参加してほしいです。大学のサポートのもとで行うため、個人で申し込むインターンシップよりも充実した内容を経験できると感じました。例えば、事前課題で企業の理念や取り組みを調べることで、知識を持った状態で参加でき、実習内容をより深く理解できます。また、マナー講座では挨拶やコミュニケーションの基本を教えていただき、当日も自信を持って臨むことができ、相手に好印象を与えやすくなりました。実習中は毎日日誌を提出し、企業の方からフィードバックをいただけるため、自分の考えを共有したり新たな視点を得たりできる貴重な機会となりました。初めての「インターンシップ」で右も左も分からない状態でも、大学のサポートのおかげで安心して取り組むことができ、学びを確実に自分のものにできます。さらに、同じ大学の学生同士で情報交換できることも大きな利点です。自分とは異なる視点や感じ方に触れることで学びが深まり、人とのつながりも広がりました。協定型インターンシップを通じて企業と真剣に向き合うことで、自分の成長を実感でき、就職活動に向けての大きな一歩となりました。今回の協定型インターンシップに参加できて良かったです。
- ・毎日書く日誌で毎日の振り返りや今日の反省点、明日の課題が確認できるので、インターンに行く意味や得た成果、今後の自分の課題など今後の就活に大事な自己分析ができ、いつでも見返せるところがメリットなので、就活を計画的に進められます。また滋賀県立大学の学生として企業に受け入れてもらえて、就職支援センターが間に入ってもいつでも相談できるのが一番のメリットだと思うので、提出物が多くて大変ですが参加した方がいいと思います。

② 時期・期間および志望先について

- ・自分は印刷に曖昧なイメージのまま好みに従って印刷会社で実習させていだいたことで、印刷についての知識が少しつき、自身が印刷に興味があると

ということがはっきりとわかったため、インターンに参加することで、その業界に興味があるかどうかははっきりとする可能性があると思う。

- ・協定型インターシップは実習期間が長期間であるため参加をお勧めします。期間が長いことで、実習させていただける業務内容も多岐に渡り、業界研究だけでは分からないことについても知ることができます。また、日が続つにつれ職場の雰囲気や業務に慣れることができるため、自分の良さを発揮することや職員の方に質問するなど有意義な実習になると思います。

③ 事前準備について

- ・自分が将来やりたいことや現場の方に聞きたいことを受け入れ先にしっかりと伝えておくといいと思います。私は、インターンを受け入れてくださった団体の方に、以前から就活イベントなどでよくお話を伺っていました。その際に、卒業後は資格を活かし専門職として働きたいと考えていることを伝えていたため、今回のインターンでは専門職の方との懇談の機会をたくさん設けていただくことができ、多くの学びがありました。もし、受け入れ先に希望を聞いてもらえなくても、自分がインターンで知りたいことを明確にしておくことで、異なる側面からの気づきがあったり、チャンスを逃さず質問したりすることができると思います。
- ・企業の事前学習には時間をかけたほうがいい。事前知識の有無によって、吸収できる知識や、質問内容の深さに差が出るから。自分の将来について相談してみると、いろんな情報を教えてくれる。
- ・大学の授業で聞いた内容が多くあったため、講義内容をきちんと理解する必要があると改めて感じた。成果発表は準備時間があまりなかったため実習時間以外で事前準備をしたほうが良い。
- ・事前準備については、実習先に関係する分野、事前に送付される実習プログラムに関する知識をある程度持つておくと職員の方の話の理解が深まり、余計な質問で時間を使わなくて済み、提案や意見をする際にも鋭い発言をすることができ、アピールにもつながります。実習期間中の起床時間などの生活リズムに実習期間の少し前から慣らしておくことをお勧めします。急に生活リズムを変えるというのは難しいことで体への負担も大きいと思います。体調を整えて心身ともに万全のコンディションで臨めるようにしてください。

④ 参加する上での態度や心がけ

- ・「実習先の人が怖かったらどうしよう」「失敗したらどうしよう」と考えてしまい、インターンシップが憂鬱になってしまう瞬間があるかもしれません。

しかし、実習先の方は基本全員優しいです。困っていたら絶対に助けてくれます。安心してインターンシップに参加してください。実習先にお世話になる際、二つのことを意識してほしいと思います。一つ目は、真摯に取り組む姿勢を貫くことです。インターンシップは、実習先の貴重な時間を割いて行われているものです。そのことを忘れずに、真剣に取り組むことが大事だと思います。二つ目に、常に笑顔を絶やさないことです。当たり前ですが、不安そうな顔やずっと真顔の人より、笑顔の人のほうがイメージがいいです。笑顔でいた方がたくさんお話してもらえるので、多くの学びが得られると思います。この二つを意識して、インターンシップでたくさんの経験を積んできてほしいです。頑張ってください。

- 私が後輩にアドバイスしたいことは3つあります。1つ目は、大きな声であいさつをするということです。職員の方が、インターン生は多く来るが、大きい声で挨拶をする子が印象に残るという旨のことをおっしゃっていたため、大きな声でのあいさつは非常に重要なことであると思います。2つ目は、自分から積極的に仕事をもらいに行くということです。インターン中は基本的に職員の方々が業務の指示をしてくださいますが、職員の方々も自身の業務で忙しくされているので、次の業務の指示までに時間がかかることがあります。そのため、話しかけても良いタイミングか様子をうかがう必要がありますが、自分から職員の方に指示を伺いに行くことが大切になります。3つ目は、インターンに向けて職員の方々に聞きたい質問事項を事前に用意していくことです。インターンの間は、職員の方々と話す機会が多くあります。そのため、あらかじめ聞きたいことを用意していくと、より、自分が興味のある企業や職業について情報を得ることが出来ます。
- 私は初日、自ら疑問点や考えを積極的に発言できずに受け身になってしまったので、はじめは知らない大人の人ばかりで緊張しますが、皆さん優しくて、接しやすい人ばかりなので、疑問点を積極的に質問したり、他愛ない話でもコミュニケーションをすることで、仕事だけでなく、職場の雰囲気も理解が深まりました。次に、定例会議や現場見学のどの職場の外でも積極的に写真撮影の許可を取ることをお勧めします。記録として残しておく、後で振り返る際に非常に役立ちます。5日間という短い期間ですが、毎日異なる業務を経験できるため、行政の建築職の仕事の多様性を実感できる貴重な機会になるので、消極的にならずに積極的に何事にも取り組んでほしいと思います。
- 質問は積極的に行うべきだと思います。分からないことだらけで、こんなこと聞いてもいいのかなと不安になることもあります。聞けば優しく丁寧に教えてもらうことができました。懇談などでは、受け入れ先の方も何が知りたいのか、どんなことを話していいのか分からない状態で始まると思います。具体的な質問だけではなく、業務内容全般などざっくりとした質問でもいい

と思うので、素直に分からないことや聞きたいことを聞けばいいと思います。台風などで警報が出る場合があると思います。学校側の対応をきちんと確認しておくと安心です。

- メモを取ることである。インターンシップ中に学んだことや気づきは、必ずしも座学や作業中に限らず、道を歩いているときや休憩中にふと浮かぶことも多い。こうした瞬間の気づきを逃さず記録することが大切である。時間が経つと忘れてしまうこともあるためである。インターンシップ中であれば手帳やノート、そうでなければスマホのメモ帳でも構わない。また、自分が本当にやりたいことを見つけ、それを実現できる会社を探すことは非常に長い道のりである。そのため、完璧を目指す必要はなく、不完全なままでもよいので、とにかく 80%くらいの完成度で行動してみることが大切である。私自身も、インターンシップをとおして本当にやりたいことを見つけることができた。
- 協定型インターンシップの応募は5月初めであり、もたもたしていると応募に間に合わないため、早いうちからインターンシップについて調べたり、大学で開かれる説明会やガイダンスに顔を出しておくべき。インターンシップ先への入り方、昼食の有無など分からないことは電話で事前に聞いておく。メールの返信は極力早く返す。大学からもらうインターンシップに関する資料は、大切なことがたくさん書いてあるので、隅々まで読んでマーカーを使って線を引いておく。
- 主に、三つのアドバイスがあります。一つ目は、体調管理です。緊張で眠れなかったり、熱中症になったりする可能性もあります。長丁場なので、少しでも体調が悪く感じたら、遠慮せず担当者に報告すべきです。二つ目は、あまり緊張しすぎないことです。初日にとても緊張して硬くなっており、相手方に心配されました。ミスをしたとしても、きちんと報連相を行えば不快に思われることはないので、そこまで気負わなくても大丈夫だと思います。三つ目は、挨拶です。すれ違う際にも、目が合えば挨拶することが大事です。自己紹介の際も、自分から名乗る方が適切です。作業を始める際に挨拶と自己紹介、作業を終える際にお礼を述べることも、基本的なことだからこそ重要だと思います。インターンシップに参加する際は、技術的な出来も大事だが、一番必要なのは礼儀正しさだと考えます。
- インターンシップが良いものになるかどうかは参加するあなたにかかっています。いつでも携帯できるサイズのメモ帳とボールペンを用意することは大前提で、できるだけ社員の方々からお話を伺うようにしてください。私はどうしても作業中の方に声をかけることが恐れ多く、引っ込みがちになってしまいました。しかし、一度勇気を出して声をかけてみると社員の方々は快く答えてくださいます。現場で働く方々の生の声はホームページなどからだけ

では絶対に仕入れられない貴重な情報です。インターンシップはそういった情報を集められるまたとないチャンスなので、ぜひ積極的なコミュニケーションにチャレンジしてみてください！応援しています！

⑤ その他感想や参考事項

- ・インターンシップ初日は本当に余裕のある行動をした方がいいです。私はインターンシップ初日に利用した電車が遅延し、駅に到着した後に猛ダッシュをして大量の汗をかいて出社することになってしまいました。できれば1本早い電車に乗ることをおすすめします。もし遅れてしまっても、受け入れ先への連絡が早ければ寛大にご対応してくださる可能性がありますので、“報連相(ホウレンソウ)”を忘れずに行動してみてください。
- ・まず何より大切なのが、担当の方はじめ、課の方々、地域の方々、様々な方に出会います。私は10日間と比較的長いインターンシップだったため、数えきれない人々に会いました。まずは、緊張すると思いますが、しっかりと挨拶し、明るい印象を持ってもらえるようになってください。また、私の場合、インターン生が一人しかおらず、心細い一面がありましたが、課の皆さんが快く受け入れてくださり、有意義な10日間を過ごすことが出来ました。インターンシップ後、きちんとお礼を伝えることが大切です。また、私が少し反省しているのが、名刺交換のやりとりをもう少し練習しておいたら良かったと思います。自身が想像している以上に名刺をいただく機会がありました。おどおどしないようになんとか平然を保っていましたが、しっかりと練習しておけばそんなことにはならないので慣れておくことが大切だと思います。

大学に対する受入先企業・団体からの意見・要望等（抜粋）

①インターンシップの制度に関すること

- ・今回の実習を通じて学生が持つ公務員のイメージに変化を与えることができたと思いますし、普段見られる事のない仕事ですが学生を受け入れることで、課員の仕事に対する自信にも繋がり、当課としても大変有意義な5日間でした。
- ・今回は5日間という期間をいただくことができ、このインターンシップを通じて、我が社の電気担当という業種、職種の理解を十分に実習生に伝えることができたと考えており、とても感謝しています。これが、3日間や1日間だとどうしても伝えきれない部分のほうが多くなってしまい、十分な企業研

究や、業界の理解を深める助けにならないという思いになるため、5日間という期間が大切だと感じました。

②就業体験の内容などに関すること

- ・今回は、水道事業に興味があるという明確な目的意識を持った学生であったため、当市としても指導する内容をより専門的に伝えることができました。また、学生からヒアリングをした際には、公務員に対する事前のイメージと、実際に体験した職場の雰囲気は想定より好印象であったようで、今後も公務員を目指す学生には是非インターンシップを活用いただければと思います。
- ・実習後の学生からの忌憚のない意見等ありましたらお聞かせいただきたく存じます。

③事前研修・事前打ち合わせなどに関すること

- ・来られる方の知識レベルや学業成績などが、どの程度なのか簡単でよいので、事前に知っておきたいです。当方で期間中に取り組む課題を準備するにあたり、本人にとって適切なレベルのものを準備したいと考えております。
- ・環境や営農に関係する授業もあるようで、実習中においてもその話題となり素晴らしい取り組みをされていると思いました。また、事前に当事業に関することを勉強されていたこと、実習に向けての目標を作成していたことなど、事前にしっかりと準備されていたことを強く感じました。

④学生に関すること

- ・今回の実習を通じて学生が持つ公務員のイメージに変化を与えることができましたと思いますし、普段見られる事のない仕事ですが学生を受け入れることで、課員の仕事に対する自信にも繋がり、当課としても大変有意義な5日間でした。
- ・県庁の福祉分野の仕事は、外部からは全部似ているように見えますが、所管事務によって実務は大きく異なります。学生の意向についてサポートをお願いします。

⑤その他

- ・今回は、5日間という設定で、現場の実習が中心となりましたが、事務的な経験もしていただけるよう10日間の方が良かったのではと感じました。ま

- た、今後の実習の参考とするため、学生さんの率直な感想や意見（実習期間・内容、職場環境、職員の対応 など）をお聞かせいただけると幸いです。
- ・評価のための報告について、もしできましたら日誌への講評の記載など、可能な範囲で簡素化していただけるとありがたいです。
 - ・食品を扱っているため、写真を撮ることが少し大変だったように感じました。すべての就業体験中の写真がご用意できない場合があること、ご容赦ください。

今年度のインターンシップの成果と今後に向けて

① インターンシップの成果

令和7年度のインターンシップガイダンスは、令和4年6月の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」（いわゆる三省合意）に基づき、本学の2年生・3年生・院生を対象に4月下旬に実施いたしました。

この三省合意では、就業体験等一定の基準を満たしたインターンシップにおいて、各事業所が取得した学生情報を広報活動や採用選考活動に使用できるようになっています。こうしたことを、事業所・学生の双方が好機ととらえインターンシップへの期待が高まったように感じています。学生からの事後アンケートや事業所からの評価からもその成果を実感しているところです。なによりも、夏季休業中の一定期間にわたる就業体験で、学生たちは様々なことを感じ、学び、一気に成長したことを、実習後のレポート、実習報告会の様子から感じ取ることができました。それぞれの体験が、これからの大学での学びや、キャリア選択に活かされるものとおおいに期待しています。

ア) 学内ガイダンスへの出席者は年々増加しておりましたが、今年度は約300名の学生の参加にとどまり、前年比2割～3割減になりました。一方、令和6年度から始めましたインターンシップ説明会「インターンフェス」には前年の倍数の学生が各企業・団体様のブースに顔を出しました。インターンシップへの参加を考える学生の総数は減りましたが、意欲ある学生の参加が増加したこともあり、インターンシップに参加した学生約50名の満足度は4.72（5点満点）と極めて高い数値となりました。これにより、学生が所期した参加目的・目標が達成されたものと考えられます。今後もこうした取組を進め、よりよいインターンシップを推進したいと考えています。

イ) 参加学生は、試行錯誤を重ねながら与えられた業務に一生懸命に取り組み、それぞれの実習先で職場の方々から丁寧に指導を受け、有意義な話を伺うことで、自己の強みや課題に気づき、成長を感じています。同時に、組織として業務を遂行するには、相互のコミュニケーションやチームワークがとりわけ重要であると実感しているところです。特にコミュニケーション能力の必要性については、各企業・団体様からいただいた評価票等を踏まえ、更なる意識付けの必要性を強く感じているところです。

ウ) 就業体験期間中に本学職員で県内の実習先を訪問させていただきました。受入先に対する理解が深まり、丁寧な指導や様々な配慮もしていただいていることが感じられました。また、お忙しいなか、実習日誌に、ほぼ毎日講評・反省点を記入していただきました。実習生は、毎日振り返りを行うことにより、多くのことを学ばせていただいたようです。ご協力に心より感謝いたします。また、評価につきましても、期間が短い中であっても一人ひとりを丁寧に評価いただき、学生にとって今後の指針となっています。

エ) インターンシップの受入先の拡大については、求人票に検討する旨を記入いただいている事業所や、卒業生がお世話になっている事業所等に問合せを行い、3月下旬に受入の可否を確認しました。

本学ホームページ (<https://www.usp.ac.jp/shushoku/intern/>) に受け入れ依頼と受け入れに必要な書類を掲載しています。インターンシップ生の受入可能な企業および団体様は、所定の様式にて本学にご連絡ください。

② 今後に向けて

ア) 実習日および実習期間について

本学のインターンシップは夏季休業期間中に設定しています。実働期間は先述いたしました三省合意に則り、原則5日間以上でお願いしています。参加学生へのアンケート結果では、適当な実習期間として、1週間程度(5日間程度)と答えている学生が80%となっております。その一方で、実習期間として、2週間程度(10日間程度)の継続性のある業務や課題に取り組む経験(課題解決型実習)を望む学生も20%ほどおり、期間が長いほど実習後の満足度も高い傾向にあります。とはいえ、受入先にとっての負担は、長期間になるほど大きくなるため、期間の設定は、実習内容と負担のバランスを考慮し、今後も受入先にて決定していただきたく思います。

夏季休業期間中であっても集中講義、部活動やサークル活動(大会等)等で日程の調整がつかず、参加を断念する学生もいます。そのため、ご指導に対して負担をかけることになってしまいますが、実習日数はできるだけ確保し、実習期日のある程度柔軟に(受入れ先と学生が協議のうえ)設定すること

が可能であるならばさらに多くの学生の参加が可能になると思われます。

イ) 実習プログラムについて

受入が決まった段階で、できるだけ早期に実習プログラムを学生に示していただくように依頼しています。学生は協定型インターンシップを夏の最重要課題と位置付けており、まずはこの日程が決まらないと他が決まらないということになっています。実習の期日や内容は、原則として受入側で決めていただいています。学生の興味や希望を知ったうえで実習プログラムに反映していただいたところもありました。学生は、申込時に事前研究として、企業研究をしたうえで実習目的や体験内容の希望をレポートに書き、受入先に提出しています。このレポート作成時に、できるだけ具体的に志望理由や興味関心のある業務、現在勉強していること等を明記するよう今後も指導する必要があります。また、電話等学生と事前打ち合わせをしていただけるとさらに相互理解が深まり実習への意欲が高まると思われれます。

ウ) 受入先と大学の連携について

インターンシップをより良いものにしていくには、受入先企業・団体と大学との連携が不可欠です。今後も連絡を密にし、インターンシップの目的と意義を共有し、状況を見極め柔軟に対応しながら、学生のキャリア選択の軸の形成に寄与できるようにご協力をお願いします。